

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
1 基礎的な学習内容の確実な定着を図るとともに、ICT等の様々なツールを活用したアクティブラーニングによる思考力・判断力・表現力の育成をする。 2 豊かな学校行事や体力向上プログラムを設定して健やかな体づくりをさせ、目標や夢に向かって、意欲的に努力し続ける元氣な子を育成する。 3 凡事徹底(挨拶・返事・靴揃え)を図り、規範意識を育てるとともに、道徳授業や縦割り班活動等を活用して、自他の良さを認め合い相手の気持ちを考えた行動がとれる豊かな心を育む。 4 郷土を学びの場とする多様な体験活動を充実させ、社会的・職業的自立に必要な態度、郷土愛、社会を支える自覚と高い志を育成する。 5 ケース会議や教育相談を通して、児童理解を深め、児童のニーズを把握して、個別の支援計画や指導計画を有効に活用して、TT指導等の特別支援体制の充実を図る。 6 危機管理の徹底と安全教育の充実、安心のある教育環境づくりをし、広く学校情報を発信する。	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 B 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国 ○国語A 国語B 算数Bについては、県平均と比べると正答率が高い。 ○算数Aについては、全国平均と比べると正答率が低い。 ○理科については、県平均と同等。 ○算数Aの「数と計算」の領域で、県平均を下回り課題がある。 県 ○国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域については県平均より低い。 ○算数は「数と計算」の領域については、学年差がある。	【学習状況調査の結果】 ○あいさつは、よくできている。 ○将来の夢や目標を持っている児童が県平均より高い。 ○家庭学習は全員一時間以上取り組むことができている。 ○授業の予習や復習をしている児童が県平均より高い。 ○授業時間以外の読書時間は、県平均より低い。

成果	課題
○「めあて」「まとめ」「振り返り」のある授業を意識しておこなうことにより、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようになった。 ○各家庭に配付している家庭学習のきまりを意識させることで、家庭学習の内容が充実してきた。その結果、算数の基礎的な問題については定着してきている。 ○ほとんどの児童が、学校は楽しい、友達と会うのは楽しいと感じており、夢や目標をもっている。	○国語の読解力を高める必要がある。 ○自分の考えを説明したり文章を書いたりする活動を充実させる必要がある。 ○算数の基礎的な問題の定着に学年差がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
数と計算の領域の得点をあげる。	学年末	○学年の9割以上の児童が90点取れるようにする。	○東書データベースを使用する。 ○ミニテストを実施する。(現単元や復習、全学年の復習) ○授業改善をする。(立式や考え方を説明できるように) ○朝学習を使用し、四則計算の繰り返し練習をする。	○基礎基本の計算についてはおおむね90点以上取れている。 ○立式や考え方の説明については、6割以上の児童ができている。	B			
要約文を書くことができる。	学年末	短い文章を要約し、8割以上の児童が要約文を書くことができる。	○東書データベースを使用する。 ○作文や各教科の振り返りなど、自分の考えを書く時間を設定する。 ○国語辞典の使用を増やす。	○低学年は、自分の考えを8割以上の児童が書けるようになってきた。○中高学年は、要約文を7割以上が書けるようになってきた。	B			
家庭学習の定着と充実	学年末	○連絡帳サインを100%にする。	○家庭学習を保護者に確認していただき、できていたら連絡帳にサインをもらう。 ○家庭学習の手引書を再度配る。	○連絡帳のサインは、85%から90%程度達成できている。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」 「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」 「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○メディアコントロールの取り組み ○キャリア教育の取り組み ○久米中ブロック主任・主事会における情報交換 ○家庭学習時間の確保	○学習状況調査 ○家庭学習の推進 ○基本的生活習慣の支援